

■ 保管と取り扱い

- ・床材と接着剤は、施工前に最低 48 時間かけ、施工場所の環境に慣らせておく必要があります。
- ・タイル製品やプランク製品のカートンは、形を揃えて平らに重ねて保管してください。できれば、資材は場所の「中央」に置いてください（通気口や直射日光などから離れた位置）。直射日光が当たる場でカートンを保管すると、熱膨張や熱収縮を誘発し、適切な慣らしに影響を与える可能性があります。
- ・ビニール製のプランクやタイルを現場でパレットに載せる場合は、間に空間を作らずに 2 段重ねて横並に積み次に 1/4 回転させてまた同じように 2 段を横並びで積んでください。これを繰り返し、積み重ねるのは 12 箱までとします。最初に、厚さ 15 mm 以上の合板をパレットに置く必要もあります。

■ 現場環境状況と床下地状況

- ・常設の空調システムは温度調節が可能なものを使用し施工前の 7 日間、施工中、および施工後は、最低 20℃、最高 29℃に設定してください。施工完了後は室温が 29℃を超えないように設定する必要があります。
- ・窓廻りなど直射日光があたる部分は急激な温度変化や周囲の室温と比較して温度変化が激しく伸縮の原因となる場合がございます。
- ・平滑かつ湿気のない、堅牢な下地に施工して下さい。下地に段差・隙間・凹凸のある場合、その程度によってタイル表面に目地が目立つ可能性があります。
- ・ゴミ、ホコリ等は完全に除去して下さい。接着剤が上手く塗布できないだけでなく、接着不良の原因になります。また、吸水性の激しい下地、及び下地が粉ふき状態の場合は十分な接着強度が出ませんので、プライマー等により下地調整を行って下さい。

注：凹凸の激しい下地、下地追従タイプのフリーアクセスフロアや開口率の高いフリーアクセスフロア等、接着力が有効に発揮しない下地に施工した場合、タイルの納まりが悪くなったり、ズレが発生したり、キャスターのねじりにより浮きや突き上げが発生することがあります。

■ 施工方法（一般）

- ・施工前の最低 7 日間、施工中、および施工後は、常設の空調システムを最低 20℃、最高 29℃に設定し稼働させてください。施工完了後は温度が 29℃を超えないようにする必要があります。
- ・カートンを 5 つ以上重ねて積まないでください。
- ・床材と接着剤は施工前最低 48 時間かけて施工場所の環境に慣らせておく必要があります。
- ・施工前に必ず、資材を目視で検査してください。
- ・すべての資材が同じロット番号のものであることを確認してください。タイルは同じ方向に並べて敷設してく

ださい（矢印がタイルの裏面に記載されています）。

- 施工を開始する前に、床下地および作業現場に関するすべての推奨条件が満たされていることを確認してください。
- Shaw のタイルおよびプランク - 従来のタイルおよびプランク施工技術を用いて施工してください。プランク製品は継ぎ目を最低 150 mm～200 mm ずらす必要があります。
- 複数のボックスがある場合は一度に作業することをお勧めします。
- 切り口が必ず壁に向くようにしてください。LVT 製品を正しくカットするには、カッターナイフでシートの上面に切り込みを入れてから、製品を曲げ裏側まで垂直にカットしてください。
- 垂直に立つ障害物の周りをカットするためにヒートガンなどの使用が必要になる場合があります。加熱した LVT は、室温に戻してから施工してください。
- 作業日は一日を通して床面のローラーがけを続け、確実に接着されるようにしてください。
- LVT の表面にテープを貼ると、表面が傷むことがあります。施工後の床養生をする際、材料に直接テープを貼って床保護材を固定しないでください。代わりに、床面の保護に使用する資材にテープを貼り、壁際のベースモールディングに固定してください。

■ 施工方法（フリーアクセスフロアへの施工）

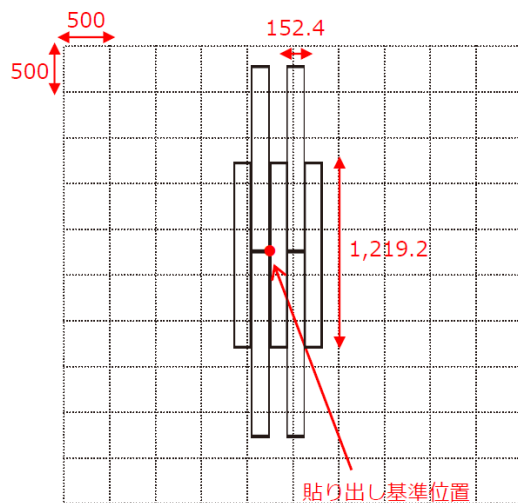
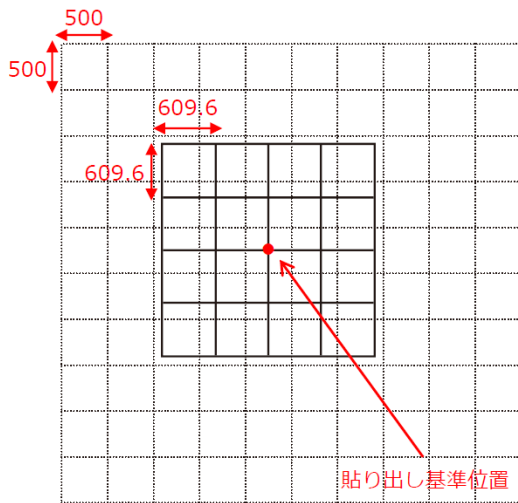
1) 施工のポイント

- LVT を施工する際、フリーアクセスフロアのパネル目地と LVT の目地を合わせないように施工して下さい。目地を合わせて施工すると目地隙や段差などが出やすくなります。
- ゆるめの施工を推奨します。LVT は寸法安定性の高いタイルですが詰めすぎた施工では後日突き上げが発生することがあります。
- パネルの段差、隙間はできる限り無くして下さい。また、凹凸の激しいフリーアクセスフロアのパネルに施工しますと床材表面に下地の形状が浮き出てきます。
- 床材と接着剤は施工前最低 48 時間かけて施工場所の環境に慣らすことをおすすめします。
- 室温 15℃以下では、タイル間に名刺 2 枚分の隙間を空けて施工して下さい。
(※同梱包のスペーサーの利用をお勧めします。)

2) 施工手順

① 割りつけ

部屋の中央に貼り出し基準線を墨出しします。LVT は下地パネルの目地をまたぐように割りつけてください。このことによって、パネルの段差、隙間の影響を出来るだけ少なくすることが出来ます。モルタル及びフリーアクセスフロアとも廻りの切り込みにタイルの 1/2 以下の端材が入らないように割りつけて下さい。

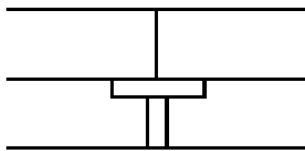


② 貼り付け

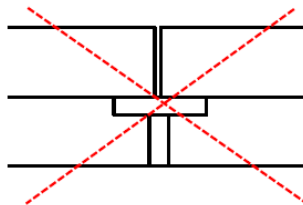
貼り出し基準線に沿ってゆめめに施工して下さい。(0.2 mm の隙間を目安に施工して下さい)
 5枚～10枚施工して目地ぐりが発生した場合は、再度基準線の取り直しを行い、二本の基準線の間でタイルの目地が等間隔になるように調整し目地が大きく狂う前に修正して下さい。

下地パネルの段差やOAフロアの目地の隙間は可能な限り出ないように調整をお願いします。

OAフロアへの目地は段差が出ないように調整をお願い致します。



OAフロアの隙間、段差は可能な限り無い状態で施工をお願い致します。



③ 接着剤の塗布

接着剤はピールアップボンド（アクリルエマルジョン系）をスポンジローラーで全面塗布します。
 指定量塗布してください。

④ 裁断

裁断にはカッターナイフを使用することができます。ガラス繊維布が下層に埋め込まれているため断面が垂直になるようにカットして下さい。斜めにカットすると突き上げの原因となります。